

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	母性看護学概論	対象学生・時期	1 年生・後期	
		講義時間（単位）	15時間（1）	
講師名	①教官☆			
科目目標	1．母性看護の概念を理解する 2．母性に関する法律について理解する 3．人間の性と生殖について理解する 4．ライフサイクル各期における女性の健康について理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	母性看護の概念	1．母性とは 2．母子関係 3．家族の発達、機能 4．ヘルスプロモーション	講義	①
2	母性看護と法	1．地域における子育て支援 2．母子保健統計からみた動向 3．母性を保護する法律と制度 4．周産期医療システムと母子保健施策		
3	母性保健の動向	1．わが国の母性看護の変遷 2．母性看護の現状		
4	人間の性と生殖	1．セクシュアリティ 1) セクシュアリティ 2) リプロダクティブヘルス／ライツ		
5		2．リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 喫煙と女性の健康 4) 人工妊娠中絶と看護 5) 性暴力を受けた女性への看護 6) 児童虐待と看護 7) 国際化社会と看護		
6	ライフサイクル各期の健康課題と援助	1．形態・機能の変化 2．ライフサイクル各期の健康課題と援助 1) 思春期 2) 成熟期 3) 更年期 4) 老年期 3．家族の発達段階と家族看護		

7	母性看護における倫理と課題	1. 母性看護における倫理的課題		
8	単位認定試験(45分)			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・母性看護学1 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版			
備考	＜参考文献＞・国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会			

科目名	母性看護方法論		対象学生・時期	1年生・後期	
			講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①外部講師 ②外部講師 ③外部講師 ④外部講師				
科目目標	1. 周産期にある対象の健康の保持・増進に向けた看護について理解する 2. 周産期における心身の特徴について理解する 3. ハイリスクな状況にある人の看護を理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	妊婦の看護	1. 妊婦の生理 1) 妊娠とその診断 （1）妊娠の定義 （2）妊娠の成立 2) 妊娠の生理 （妊娠に伴う母体の変化） 3) 妊娠期の検査と目的 4) 胎児の発育とその生理 5) 遺伝相談 2. 出生前 1) 不妊治療 2) 出生前診断		講義	①
2		3. 妊娠期の異常 1) 異所性妊娠（子宮外妊娠） 2) 妊娠持続期間の異常 （流産・切迫流産、早産・切迫早産、不育症、胎状奇胎） 3) 妊娠に伴う異常 （1）合併する全身疾患 （心疾患、腎疾患、子宮筋腫） （2）妊娠疾患 （妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠性貧血、血液型不適合妊娠） 4) 妊娠期の感染症 5) 羊水量の異常 6) 多胎 7) 胎児機能不全			

3		4. 妊婦と胎児のアセスメント 1) 正常な妊娠のアセスメント (1) 妊娠の経過と胎児の発育 (2) 妊婦と胎児への健康状態のアセスメント		②
4		2) 正常な妊娠の看護ケア (1) 妊婦の日常生活への看護 (2) 妊娠の不快症状 (マイナートラブル) への看護 (3) 妊婦の心理社会的変化と看護 (4) 出産を控えた家族の心理 社会的変化と看護 (5) 家族機能調整のための 保健指導 3) 妊娠期のメンタルヘルスケア (1) 妊婦の心理への看護 (2) 母親役割獲得過程の準備への 看護		
5		5. ハイリスク状態にある妊婦の看護 1) 異所性妊娠 2) 妊娠維持期間の異常 (1) 流産・切迫流産 (2) 不育症 (3) 早産・切迫早産 3) 妊娠に伴う異常 (1) 妊娠悪阻 (2) 妊娠高血圧症候群 (3) 妊娠糖尿病 (4) 妊娠性貧血 4) 合併症を有する妊婦 (1) 心疾患 (2) 腎疾患 (3) 子宮筋腫 5) 妊娠期の感染症 6) 羊水量の異常 7) 胎児機能不全の評価		

6	産婦の看護	1. 分娩期の生理 1) 分娩の定義 2) 分娩の3要素 3) 分娩の経過 2. 分娩期の異常 1) 分娩の3要素の異常 2) 児頭骨盤不均衡 (CPD) 3) 臍帯の異常 4) 胎児機能不全 5) 分娩時裂傷 (子宮破裂、頸管裂傷) 6) 分娩時異常出血 (前置胎盤・ 常位胎盤早期剥離・弛緩出血・ 産科DIC) 7) 産科処置と産科手術 (1) 分娩誘発・促進 (2) 会陰切開 (3) 無痛分娩 (4) 帝王切開	③
7		3. 産褥の生理 1) 全身の変化 2) 生殖器の変化 4. 産褥期の異常 1) 産褥期の出血・血栓症 (1) 子宮復古不全 (2) 後期分娩後異常出血 (3) 静脈血栓塞栓症・ 深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症 2) 産褥期の感染症 3) 下部尿路機能障害 4) 乳頭乳房トラブル 5) 産褥精神障害	
8		5. 産婦と胎児のアセスメント 6. 産婦のニーズと看護 1) 分娩各期の看護 2) 母児の安全 7. 産婦と家族の心理 1) 母親意識の発達 (1) 早期母子接触 (2) 授乳の開始	②

9		8. 異常のある産婦の看護 1) 分娩の3要素の異常 2) 分娩時損傷 3) 分娩時異常出血 4) 産科処置と産科手術の看護 (1) 分娩誘発時の看護 (2) 会陰切開・縫合時の看護 (3) 帝王切開時の看護		
10	褥婦の看護	1. 正常な産褥のアセスメント 1) 産褥経過における変化 2. 褥婦のアセスメント 1) 身体機能の回復 2) 進行性変化 3) 育児技術の獲得		④
11		3. 正常な産褥の看護ケア 1) 身体機能の回復 2) 進行性変化の促進 3) 育児技術の獲得・退院指導 4) 母性関係の確立と支援		
12		4. 異常のある褥婦の看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥熱 3) 帝王切開術後 4) 乳腺炎 5) 排尿障害 6) 精神障害		
13	新生児の看護	1. 新生児期における看護師の役割 2. 新生児の生理 3. 新生児のアセスメント 1) 成熟度の評価 2) フィジカルアセスメント 3) 行動の評価		
14		4. 新生児の看護ケア 1) 胎外生活への適応 2) 事故防止		
15	単位認定試験 (45分) まとめ	母子関係の確立と支援		④

評価方法	筆記試験
使用テキスト	・母性看護学2 母性看護の実践 メディカ出版 ・母性看護学3 母性看護技術 メディカ出版
備考	<参考文献> ・写真でわかる母性看護技術（改訂版）インターメディカ

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	母性看護学演習	対象学生・時期	1 年生・後期	
		講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①教官☆			
科目目標	1．母性の対象となる人々の健康の保持・増進に向けた支援について理解する 2．母性看護に必要な援助技術が習得できる			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	マタニティサイクルの対象者への看護過程の展開（妊娠期）	1．妊娠期のアセスメント 1）妊婦のアセスメント	講義 演習	①
2		2）胎児のアセスメント		
3	母性看護に必要な援助技術（妊娠期・分娩期）	1．妊娠期の援助技術 1）妊婦体操 2）腹囲・子宮底の測定 3）レオポルド触診法・胎児心音聴取 2．分娩期の援助技術 1）呼吸法・産痛緩和とマッサージ法		
4	マタニティサイクルの対象者への看護過程の展開	1．分娩期のアセスメント 2．産褥期のアセスメント		
5		3．新生児のアセスメント		
6	（分娩期・産褥期・新生児期）	4．産褥期の計画立案と評価（正常褥婦）		
7		5．産褥期の計画立案と評価（正常新生児）		
8	母性看護に必要な援助技術（産褥期・新生児期）	1．産褥期の援助技術 1）産褥体操 2）子宮復古状態の観察		
9		2．新生児の援助技術 1）抱き方、衣服交換、おむつ交換 2）身体計測、バイタルサイン測定 外表所見の評価、原始反射の評価		
10				
11		3）沐浴、ドライテクニック		
12				
13	マタニティサイクルの対象者への看護過程の展開（産褥期）	1．退院後の生活に向けた看護 1）退行性変化の促進 2）進行性変化の促進 3）育児技術の習得		
14				
15		4）指導方法の検討 （1）健康の保持・増進 （2）母子相互作用		

評価方法	課題
使用テキスト	・母性看護学1 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 ・母性看護学2 母性看護の実践 メディカ出版 ・母性看護学3 母性看護技術 メディカ出版 ・基礎看護学（2） 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・看護診断ハンドブック 第12版 医学書院
備考	<参考文献> ・写真でわかる母性看護技術（改定版） インターメディカ ・根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 ・根拠がわかる母性看護過程 南江堂

実習科目	母性看護学実習	対象学生・時期	1年生・後期
		講義時間（単位）	90時間（2）
実習目的	周産期及びライフサイクル各期にある女性とその家族への健康の保持・増進へ向けた看護を実践する基礎について学ぶ。		
実習目標および内容			
1．周産期にある母子の特徴を理解できる。 1）妊娠期の正常な経過と援助について述べられる。 2）妊婦健康診査を見学し、収集した情報からアセスメントできる。 3）分娩期の正常な経過と、分娩を促すための援助が述べられる。 4）出生直後の新生児の観察と援助について述べられる。 5）出生前から出生後の新生児の変化について述べられる。			
2．周産期の各期に必要な援助が実施できる。 1）褥婦の生理的变化について述べられる。 2）褥婦の退行性変化への援助ができる。 3）褥婦の進行性変化への援助ができる。 4）褥婦の心理的・社会的状況について述べられる。 5）褥婦に必要な保健指導が一部実施できる。 6）母児の安全・安楽に配慮した援助ができる。 7）児を受け入れる生活・社会環境を整えるための援助が述べられる。 8）新生児の観察・援助ができる。 9）新生児に行われる検査・与薬の内容と必要性が述べられる。 10）母児相互関係確立への援助ができる。 11）父親・家族の適応状態を踏まえ、適応へ向けての援助が述べられる。 12）周産期に活用できる包括的支援が述べられる。 13）チーム医療における看護師の役割が述べられる。			
3．看護実践の振り返りを通して自己の課題を明確にできる。 1）個人およびチームと良好な人間関係を築くことができる。 2）主体的・効果的に学習できる。			
評価方法	評価表による評価		